

平成27年1月8日

平成26年度教育課程編成委員会報告書

学校法人聖ヶ丘学園 聖ヶ丘教育福祉専門学校校長
教育課程編成委員会委員長
井上 貴 恭

学校法人聖ヶ丘学園聖ヶ丘教育福祉専門学校は、教育課程編成委員会規程（平成26年6月1日制定）に基づき教育課程編成委員会を設置しました。

平成26年度、教育課程編成委員会を実施しましたので、下記のとおり報告します。

1 委員 <9名>

番号	氏名	所属
1	園田 菜摘	横浜国立大学教育人間科学部准教授
2	斉藤久美子	学校法人聖ヶ丘学園聖ヶ丘教育福祉専門学校附属育和幼稚園副園長
3	江津 秀子	学校法人聖ヶ丘学園附属八幡橋幼稚園園長
4	岩本 妙子	学校法人聖ヶ丘学園うみの風保育園園長
5	雨池ヒサ子	学校法人聖ヶ丘学園にじの風保育園園長
6	井上 貴恭	学校法人聖ヶ丘学園聖ヶ丘教育福祉専門学校校長
7	古澤 昇	同 副校長
8	今村 雅彦	同 保育科教務部長
9	亀田 良克	同 就職指導部長

陪席者 <3名>

学校法人聖ヶ丘学園聖ヶ丘教育福祉専門学校
遠藤政男事務長 宮本安希子教務部員 田島あぐり教務部員

2 教育課程編成委員会開催日時

第1回 平成26年 9月29日(月) 16:00~18:10

第2回 平成26年12月15日(月) 16:00~17:48

<開催場所> 聖ヶ丘教育福祉専門学校 1階 会議室

3 委員会次第

第1回委員会次第

- (1) 校長挨拶
- (2) 委員の紹介
- (3) 教育課程編成委員会の進め方
- (4) 平成26年度教育課程現状報告
- (5) 審議
- (6) 次回の議事内容及び日程等
- (7) その他

第2回委員会次第

- (1) 委員長挨拶
- (2) 審議
 - ・ 平成26年度教育課程改善方策について
 - ・ 平成27年度教育課程改善方策について
- (3) その他

4 議事報告

(1) 平成26年度教育課程編成改善方策について

① 学力の向上に向けて

ア 文章力の向上

通年実習での実習日誌のコメントの作成において書きたい内容の把握や内容の構成、助詞の使い方等文章を作っていくうえでの課題を持つ学生が散見される。実習に向けての事前指導を細かく講義されていることは多とするが、実習指導の機能の問題が挙げられる。少子化もあり学生のレベルも様々で、レポートをどう書けばよいのか、単位をどう取得していけばよいのか解らない学生もいる。文章の書き方指導（5W1H等）とともに文章を書く上での意識すべき事柄についての指導も1学年からすべきであると思料する。

国語の授業では、新聞のコラムテキストを活用している授業が報告されている。確かにこの方法は、学生が語彙力を高めたり文章構成を学んだり内容を要約する力をつけたりするのに多くの効果が期待できるが、コラムテキストを利用する場合は、一社のコラムだけに偏するのではなく、他社のコラムも利用して多様な文章表現等を身につけさせることが望ましい。保育者を目指す学生には、読後に目指す保育者を思い描け、保育者の素晴らしさや熱意、読む人の琴線に触れ感動を与えるような内容の本を教員が選んで教材として使用してはどうか。

イ 文章の内容の向上

主題が明確で内容のある文章の作成指導や、起承転結といった作文の構成指導、原稿用紙の書き方指導等について、国語を担当する非常勤講師とも連携を更に密にして充実してもらいたい。

学生が書く礼状等の指導でも手紙文の形式に則ることは大事だが、内容が似通ったものになってしまっており、もう少し自分の言葉で書き手の顔が見えるような文章を書かせる指導をお願いしたい。

② 授業の質の向上に向けて

ア 授業評価の導入

学生による授業評価については、当校の自己評価委員会及び学校関係者評価委員会でも実施に向けた提言がなされており、授業の質を高める具体的な取り組みとして、シラバスの作成とともに有効な方法である。

授業評価の実施に当たっては、評価される教員も納得できる公正な結果を得るために、先ず学生自身の授業を見る目を育てることが肝要である。

授業評価アンケート作成に当たっては、評価の公正を期するために記名又は無記名方式や受講した学生の授業欠席回数、授業受講態度等の項目の設定も検討すべきである。また、アンケートの項目の設定に当たっては、抽象度の高い質問である共通項目

以外に、授業担当の教員が設定できる自由項目設定欄を設けては如何か。授業担当教員ならではの具体的な質問項目を設定できることで、アンケート結果を次年度の授業に反映できるからである。

イ 常勤及び非常勤教員の協業体制の構築

これまで、常勤教員と非常勤教員が同一科目を授業する場合にあっては、非常勤教員の専門性を重視し、常勤教員との授業内容の統一を諮っていないので、授業内容に若干の差異が生じることを懸念する。今後は、常勤及び非常勤教員が学校の理念や方針を共有し、学生の利益を何よりも大切にして、全校一体となって学生を育てていく協業体制の構築に更に努力されたい。

(2) 平成 27 年度教育課程編成改善方策について

① 学力の向上に向けて

ア 文章力等の向上

平成 27 年度も平成 26 年度と同様な学生の文章力及び文章内容の向上に向けた様々な方策を継続して実施すべきである。

イ 読解力の向上

読解力の向上のためには、学生に保育者に関する書物を読ませることにより、全体の意味や内容を理解させることを大事にしたい。読むことを通して、保育の内容や保育者としての必要な素養等が身につくような書物がよく、学生にとって心の琴線に触れる内容のある書物を教員側が吟味して読ませることが必要である。また、本の選択に当たっては、学生にアンケートを取って学生の多くが勧める本を選ぶのもよい。

ウ 表現力の向上

これまでもディベート、プレゼンテーション、ロールプレイ等の手法について演習科目等で行ってきているが、講義科目でも取り入れる他に、学生に討議した自分の考えを発表する場の提供も必要である。

エ 教材の吟味

既成の教材の吟味も含めて、当校の学生の実態に適した自主教材の開発に取り組むよう検討願いたい。

② 授業の質の向上に向けて

平成 27 年度については、平成 26 年度と同様な学生による授業評価の完全実施をすべきである。また、常勤及び非常勤教員の協業体制の構築に向けた様々な方策を更に継続して実施すべきである。

③ 一般常識等の習得に向けて

一般常識はもとよりマナーや立ち振る舞い、言葉遣い、自然の美しさの大切さ、学校生活でのけじめ等について、学生の気質をよく理解して指導すべきである。今は良くてでも社会に出た場合の感覚のずれやそれから生じる弊害を常識からの側面ではなく学生が納得できる理由を提示しながら伝えていく必要がある。今後、就職及び実習指導の中で更に身につけさせることが大切である。

以上